

スチール缶における3R推進自主行動計画フォローアップ結果

スチール缶リサイクル協会概要

- ・名称：「スチール缶リサイクル協会（旧：あき缶処理対策協会）」
- ・英文名：「JAPAN STEEL CAN RECYCLING ASSOCIATION」
- ・設立目的：使用済みスチール缶の散乱防止・環境美化推進及び3R推進のための調査研究・指導・普及啓発広報活動を行うことで、社会に貢献すること。
- ・設立：1973年4月
- ・所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鉄木挽ビル1階
TEL：03-5550-9431 FAX：03-5550-9435
URL：<http://www.steelcan.jp>
- ・役員：理事長：内田 耕造（新日本製鐵株式会社代表取締役副社長）
副理事長：林 伸行（東洋製罐株式会社常務執行役員、資材・環境本部本部長）
副理事長：山口 勇（大和製罐株式会社代表取締役副社長）
専務理事：酒巻 弘三（専任）
- ・会員：スチール缶の製造に係る企業12社で構成
鉄鋼メーカー（3社）：新日本製鐵、JFEスチール、東洋鋼鋳
製缶メーカー（3社）：東洋製罐、大和製罐、北海製罐
取扱商社（6社）：三井物産、伊藤忠丸紅鉄鋼、メタルワン、
JFE商事、日鐵商事、幸商事

スチール缶リサイクル協会の主な活動歴史

- ・1970年代
スチール缶の散乱防止・再資源化の為の調査・研究・実験を開始
海外の廃棄物処理動向調査開始
消費者・自治体・有識者等と連携し、環境美化・資源化等研究会を開始
- ・1980年代
廃棄物処理に係る社会的システム構築議論に参画開始
スチール缶の鉄屑検収規格等整備
都市ごみ資源化実態調査等開始
- ・1990年代
スチール缶リサイクル率自主目標を設定し、先駆的に公表
分別排出・分別収集推進のため、自治体資源化施設への支援開始
ボランタリープラン公表(1995)
- ・2000年代
消費者向け[リサイクル 3R]推進普及啓発拡大
協働型集団回収への調査研究及び支援開始

スチール缶リサイクル協会

【自主行動計画の2008年度フォローアップ結果】

～2004年度実績を基準とし、目標年次を2010年度とします～

<自主的取り組み>

スチール缶業界における自主的取り組み目標とフォローアップ結果
<p>リデュース目標：新たな技術開発を行い、2004年度実績比1缶あたりの平均重量で2%の軽量化を目指します。</p> <p><フォローアップ結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008年度は、主要4缶型の缶型構成変化の影響を除いた1缶あたりの平均重量で2.01% (0.72g/缶)の軽量化を行い、当初の目標を前倒しで達成いたしました。 <p>リサイクル目標：スチール缶リサイクル率85%以上を維持します。 より潰しやすい容器の開発を目指します。 集団回収を研究し、普及啓発を図ります。</p> <p><フォローアップ結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スチール缶リサイクル率は、88.5%で目標をクリアしました。 ・軽量化推進により、より潰しやすくなりました。 ・集団回収の現状調査を継続して実施しております。

1. リデュース目標とフォローアップ結果について

2006年6月、日本製缶協会が「スチール缶軽量化推進委員会」を立ち上げ、リデュース（軽量化）を推進しています。

スチール缶軽量化推進委員会の事前調査で、スチール缶の総生産数中主要な缶型4種で、スチール缶生産の85%以上を占めていることが判りました。そこで、重点指向の考え方から主要4缶型をリデュース推進の対象としました。

- ・対象缶型：主要4缶型

202径	200ml、250ml
211径	280ml、350ml

- ・4缶型生産数/総生産数（4缶型カバー率）

2004年度（基準年度）	85.8%
2006年度（推進初年度）	85.6%
2008年度（推進3年度）	85.6%

- ・推進対象企業：8社
- ・軽量化指標：4缶型の缶型構成変化の影響を除いた1缶当たり平均重量
- ・集計方法：各企業生産数・重量を、第三者機関にてデータ集計。

フォローアップ結果

2008年度は、主要4缶型の缶型構成変化の影響を除いた1缶あたりの平均重量（加重平均）で**2.01% (0.72g/缶)の軽量化**を達成しました。

4 缶型合計の 1 缶あたりの単純平均重量は、**2.88% (1.00g/缶)**の軽量化でした。加重平均と単純平均との差は缶型構成比の変化によるもので、軽量の小容量缶へ移行していることなどを示しています。

2. リサイクル目標とフォローアップ結果について

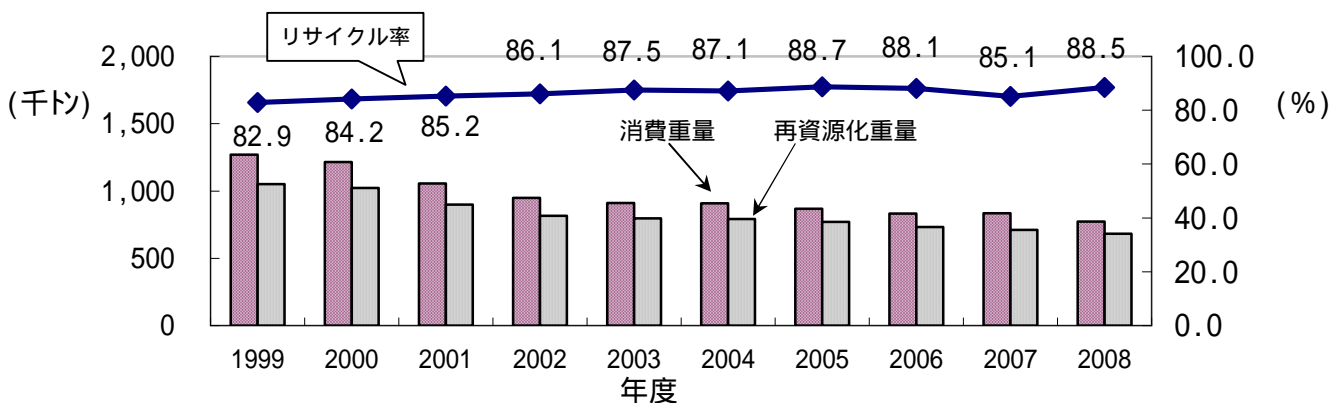
2-1. 2007 年度のスチール缶リサイクル率は 88.5% で、経済産業省の産業構造審議会ガイドライン目標「**スチール缶リサイクル率 85% 以上**」を 8 年連続で達成し、2007 年度の 85.1% から **3.4 ポイント上昇**しました。

昨年後半より世界的不況で鉄スクラップ市況も下落しましたが、長期的に見ると鉄鋼需要の増大が見込まれております。一方市況とは無関係に、鉄スクラップの資源化では自動車リサイクル法等の制定などを背景に、鉄スクラップ加工用シュレッダー設備が増強され、鉄スクラップの資源化は効率的且つ高品質化が進んでおり、スチール缶スクラップも貴重な資源としてリサイクルされている環境にあります。こうした状況を踏まえ当協会としては、調査対象を拡げ製鋼原料としての上級シュレッダースクラップに含まれるスチール缶混入量を調査、リサイクル率に反映いたしました。

尚、スチール缶のリサイクル率が、85% 以上と高い水準を維持している要因としては、

- ・全国的に分別収集システムが普及していること
- ・中間処理における選別が、磁力による機械選別が可能で安価なこと
- ・再資源化のための鉄鋼メーカーによる受け入れ体制が整っていること
- ・再商品化製品が多種多様にあること
- ・鉄スクラップは無限循環資源であり重要な素材として位置付けられており、昔から国内循環システムが構築されていること、

などが挙げられます。



2-2. 潰しやすさについては、軽量化を図ることで推進しました。

2-3. 平成 17 年度より、全国の集団回収の実態調査・研究及びアンケート調査を継続して実施しています。

地域コミュニティ活性化・環境意識の向上・資源廃棄物の質の向上・社会的コスト削減等に寄与することから、分別収集の補完的仕組みとして行政が関与している割合が増加しています。



集団回収フォーラム

<消費者・自治体・事業者等主体間の連携に資する事業者の取り組み>

スチール缶業界における主体間連携に資する取り組み目標とフォローアップ結果

目標：1973年の当協会設立以来、消費者・自治体との連携に資する環境美化及び3R推進の取り組みを推進しています。2008年度の取り組みは以下のとおり

「協働型（実施団体・回収業者・自治体）集団回収調査」を継続実施しました。

環境学習支援「集団回収を通じて、優れた環境学習に取り組む学校への支援」を継続

集団回収支援「スチール缶の集団回収を実施している団体への支援」を継続

学校給食プログラム支援「WFP国連世界食糧計画を通して、国内スチール缶リサイクル量に応じて世界の貧しい子供達への食料支援」を継続



集団回収調査



環境学習支援



集団回収支援



学校給食プログラム支援

ポスターコンクール「第3回スチール缶リサイクルポスターコンクール」を実施

キャンペーン活動「地域清掃・ポイ捨て散乱防止環境美化キャンペーン」を継続実施

（開始：1973年～、実施回数：476回、実施場所：339ヶ所）

リサイクル推進ポスター「次も鉄～鉄～」を制作、全国の市区へ配布

リサイクルデータ集「スチール缶リサイクル年次レポート2008」を発行、全国の市区へ配布



ポスターコンクール



キャンペーン活動



リサイクル推進ポスター



リサイクルデータ集

小冊子「リサイクルといえばスチール缶」改訂版を制作、全国の小学校へ配布

広報誌「STEEL CAN AGE」を発行、全国の市区・メディア等へ配布

環境展：全国の環境展及び会員企業の事業所等での環境イベント等へ出展もしくは協力

シンポジウム「全国まち美化推進シンポジウム」を開催

その他：容器包装リサイクルに係る八団体共同による各種事業推進を実施



小冊子



広報誌



環境展



シンポジウム